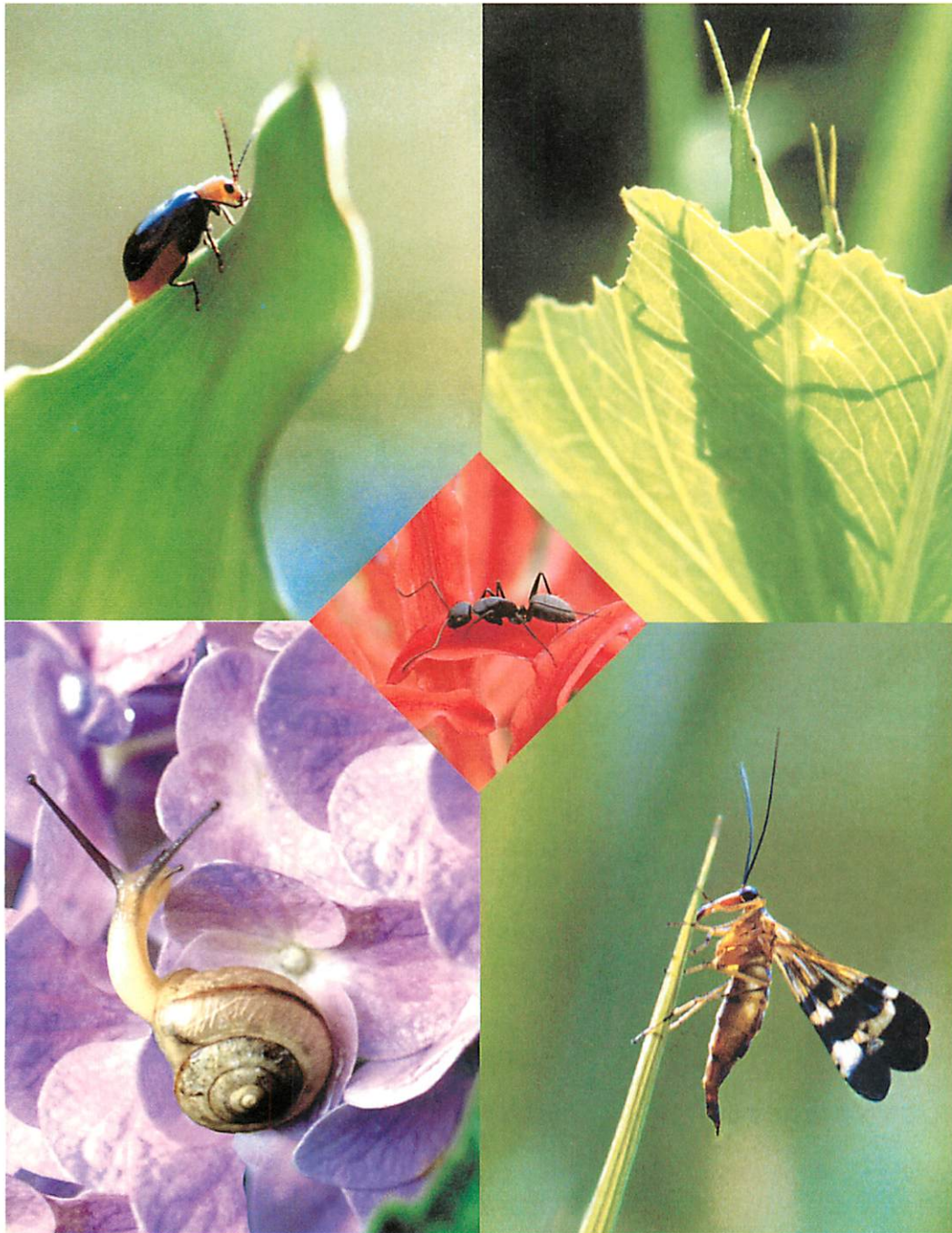


2002年

12月号

# Stage Up

生涯学習情報誌  
ステージ・アップ  
通巻 No. 116



「里の虫たち」撮影：川口 道明

もくじ

- 2 特集 インタビュー 上田恒三さん
- 4 生涯学習ア・ラ・カルト
- 6 ぐるーぷBOX / いま地域で 学校で
- 7 まち・ひと・多面体 / くらし百景 歌壇
- 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団  
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1  
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085  
ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

## 特集

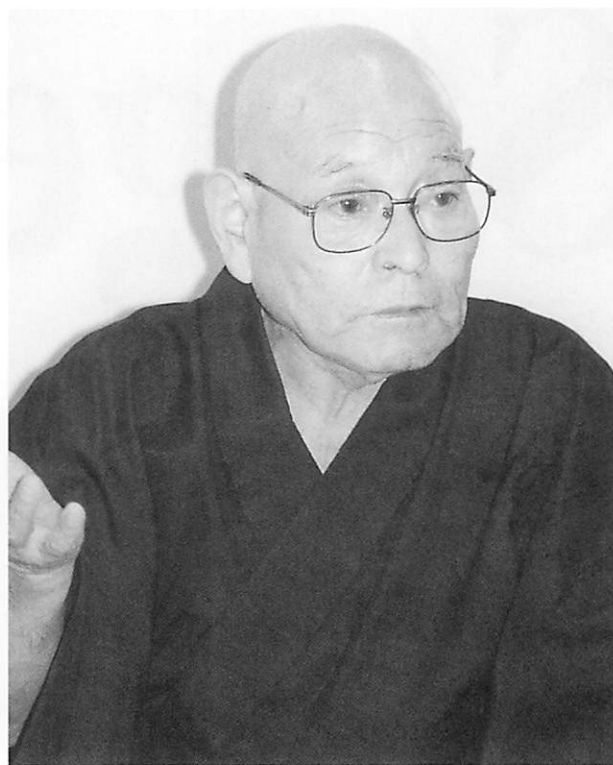
## インタビュー

郷土史研究家

## 上田 恒三 さん

上田恒三さんが郷土史研究に取り組んだ原点は「シベリアにある」と言います。中国で終戦を迎えた後、シベリアに抑留された上田さんを支えたのは「何としても故郷の溝口に帰るのだ」という思いだったそうです。昭和25年帰国。その目に映った故郷は「表面的には変わっていないけれど、どこか違う」。そんなことから「地元のことを振り返って見る必要がある」と歴史書をひもとくようになったのです。川崎市の職員として勤務する一方、独学で郷土史を研究して半世紀。その間に「高津村風土記稿」「百姓達の明治維新～激流」など、庶民の歴史をまとめ自費出版。平成13年には、地道な研究が高く評価され、川崎市文化賞に輝きました。

80歳を越えた今でも、古文書の解説、民具の調査研究や歴史講座の講師として精力的に活動している上田さんに、独自の勉強法や郷土史の魅力について伺いました。



## 独学で研究に打ち込み半世紀 懸命に時代を生きた先人に学ぶ

——上田さんは、郷土史研究家としてご活躍ですが、郷土の歴史を調べようと思われたきっかけは何ですか。

上田 私郷土史の研究を始めた理由はいろいろありますが、一番のものは、シベリアに抑留されたことです。シベリアでは生きる事の苦しさ、命の尊さを感じました。何としても溝口に帰って、もう一度お宮の神輿をかつぐんだ、御会式の太鼓をたたくのだと思っていました。草を食ったり、カエルを食ったりして、必死で生きてきました。これは帰るべき故郷があるということで生き延びられたのだと思います。

帰ってみると、溝口は戦災にもあわず、昔のとおり姿でしたが、生活している間に昔の溝口と違っていることに気づきました。戦後経済の混乱や生活苦から年中行事は忘れられ、開発を理由に文化遺産は次々に消えて行きました。そういう姿を見ると「これはもう一度地元のことを振り返ってみる必要があるのではないか」と思いました。自分の故郷をもう一度見返してみようというのが最初のきっかけですね。

——古文書などはどのようにして学ばれたのですか。

上田 私は、小学校しか出ていません。専門家に教えを受けたり、それを解説する講座に通ったりということもありません。人間、このことをやらなければ、とと思って徹底的に取り組むと自然に読めるようになってくるものです。何度も何度も読んでると自然にわかってくるものです。都合のいいことに、昔の人の書いたものには一つの形式がある。例え

ば、文書の書き始めは必ず「恐れながら、書き付けをもって申し上げ候」とか「恐れながら、何何をもって嘆願申し上げ候」という具合になっている。最後は必ず「この旨、しかと心得て…」という形になっているのです。慣れてくると、一つのパターンがわかってくるので、読めるようになります。

徳川時代の文書は、尊円流で徳川吉宗が室鳩巢に命じて寺子屋の手本としたので広く普及し、幕府や諸大名の公用文はすべて尊円流で書く事となったので、御家流とも呼ばれた書体です。今はいろいろな手引書もあるので、一生懸命に勉強すれば読めるようになるのです。

私の解説の仕方は、読める所からどんどん書いてみる。読めないところは丸をつけてあけておく。その後、全体を読んでもみると、丸のところにあてはまる文字がわかってきます。わからない文字があっても全体の文章を読むことでわかってきます。

——これまでの研究や調査で大変だったことは？

上田 私の郷土史研究に対する心構えは、あくまでも実証史学です。実際に書いたもの、あるいは使われたもの、いわゆる証拠物件のないものは郷土史として取り上げることはできないと考えています。証拠物件のないものは単なる口伝です。あるいは伝説かもしれない。実際に証明するもの、それは文書です。一つの文書が手に入ったので、それを全部解説してみる。何月何日、誰がどんな所で、どんなことをしたか、細かいことが書いてある。しかし、これをそのまま資料として

採用することはできない。これを裏付ける資料がほしい。一つの文書が発見されたら、さらにそれを裏付ける資料を探さなくてはならない、そういう苦労があるので。

こういう調査の方法は、軍司令部の参謀部でソ連領内の地形情報を担当していた時に学びました。情報収集というものは一つの情報を得たからといってこれだと確定すると大まちがいを引き起こす。情報を得た場合は、さらにそれを裏付ける情報を手に入れ、あらゆる角度から総合判断をして結論を出す、という方法でした。

私の書いたものは絶対大丈夫だといって書くのですが、新しい資料が入ってくると、「ああ、これはもう少し書き直さなくてはいけない」ということになります。これは郷土史家にとっては一つの宿命なのです。

——郷土を調査研究してあらためてわかったこと、驚いたことなど教えてください。

上田 一般の歴史教科書には、明治維新の中心的事実だけを書いてあるし、どの本にも出ています。しかし、この辺の土地の百姓が、明治維新の時、どんなことをしたとか、どの



「歴史散歩」の講師として市内の寺社をめぐり参加者に解説（提供写真）

ようになります。私は、その生徒がどこに住んでいるのかを聞いて、「君の住まいの近くにこのような寺や神社、お地蔵さんなどがあるから、そこに自分で直接行って調べて見なさい」と教えます。歴史といえは石器時代からある。まず、身近なところからは始めるように話しています。

——最後に抱負をお聞かせください。

上田 「高津村風土記稿」を出してから、私のところに土地の人たちから古文書がどんどん集まって来ました。それを読んでみると、「高津村風土記稿」を書いた時の考え方が違っていった部分があったので、それらの資料をもとにして新たな観点から書いたのが「百姓達の明治維新一激流」です。ところが、これを出してからまたそれに関する資料が手に入りました。いずれはこの中の何項目かを書き直さなくてはならないと思っています。

私のような歳になると、いつどうなるかわかりませんので、5年10年とかかかるような仕事は無理だろうと思ひまして、今「郷土史覚書」というようなものをぼちぼち手がけています。まわりの家々がみなコンクリートの建物になったり、マンションになったりして、昔の建物がどんどんなくなっています。ここには昔、こういう建物があったのだとか、ここに何が建っていたとか、そういうことを覚書程度に書き留めておきたいと思っています。また、国内、県内、市内でどんなことがあったのか、自分なりの解釈、感想などもあわせて記しておこうと思っています。50年後、100年後の人達が、「平成の時代はこんな事があったのか」と理解し、こうした歴史的事実から学び、どのように生きていけばいいのかを考えることでしょう。このような覚書も一種の資料になると思います。



「ふるさと歴史なんでも相談室」で子どもに質問に答える上田さん

ような影響を受けたというようなことは、何も書いていません。歴史書には出てこない無名の人たちの関わった明治維新の様子が、古い資料を調べていると知ることができます。自分の祖父や曾祖父に関係してくる。調べれば調べるほど、その当時の人の思いや自分の身近な人たちの苦労が伝わり、感動します。その人たちの苦労を土台に今の高津があるのだといつも思っています。

驚いた事は、幕末から明治初期の溝口の人たちは、非常に江戸との交流が盛んだったので、いち早く世の中の動きを知っていたということです。と同時に、このあたりは矢倉沢往還、神奈川道、府中道などによって諸国の物産と共に他国の情報が入ってくる。街道は一種の情報網であったということが言えます。ですから、溝口では一揆など起きたことはない。みんなそれに備えてうまく世渡りしていたようです。さまざまな資料から、ここの人たちは時代の先を見越していたことがわかりました。

——中学生や高校生など郷土史の研究について相談にくるそうですね。

上田 夏休みの宿題として出されたので、郷土の歴史のことを聞きに来る感じで、「郷土の、この時代の、これについて調べたい」というはっきりした目的を持って来る生徒は少な

### 上田 恒三 さん（うへだ・つねぞう）

郷土史研究者。1920年生まれ。高津尋常高等小学校卒業。45年、ハルピンにて終戦後シベリア抑留。50年帰国。その後独学で郷土史研究に取り組む。70年、『向丘村郷土史』執筆。80年、『高津村風土記稿』を自費出版。99年、『百姓達の明治維新一激流』出版。2000年、『極北の挽歌』出版。この間、石仏の写真展、古地図・古文書の展示会を大山街道ふるさと館などで多数開催。2001年、川崎市文化賞受賞。高津区溝口出身。宮前区在住。

●まなぶ●

かわさき市民アカデミー 「ベトナム研修旅行」

かわさき市民アカデミー受講生39人は、9月11日から17日までの日程でベトナム研修旅行を行いました。

一行は、川崎市の友好都市であるダナン市の友好協会表敬訪問や、ダナン大学で日本語を学ぶ学生との交流、さらに、ベトナム戦争時の地下要塞「クチトンネル」、世界文化遺産に指定されている「ミーソン遺跡群」「ホイアン日本人町跡」「グエン朝王宮跡」の見学をしました。



ダナン大学で日本語を学ぶ学生と交流するアカデミー会員

<参加者の感想>

◆植林したユーカリの木が育っている広大な山野は、上空よりばら撒かれた枯葉剤によって焦土化した所。原形を失っている多くの古い建造物は、砲弾で壊されたあと。戦争のいたまじさと空しさを感じた。

◆各都市を見ると、商売に、建設に忙しく活動しており、経済・社会の建て直しを急速に進めているドイモイ政策が浸透しているかのようであった。しかし、南から北へ移動するバスから見た民衆の生活は貧しく、経済の格差は拡がりつつあるように見えた。

◆ダナン港の水は、流れ込んでくる土が混ざり輝きを失い、茶色く濁っていた。ダナン大学で日本語を学んでいる学生は、熱意に溢れ美しく輝いていた。

◆18世紀初頭の日本人町の遺構をはじめ、ホイアンの旧市街地の街並みはきれいに整備されており、多くの外国人でにぎわっていた。経済政策の一つとして観光に力を入れていることを感じた。

第10回 「川崎学サロン」

—統計から見る「かわさき」の可能性—

川崎学サロンは、その時々「かわさき」についての研究成果や話題にフォーカスをあて、「かわさき」を考える機会を提供してきました。第10回のサロンでは、新しい統計情報から見る「かわさき」の未来について、市の統計セクションからお話をいただく予定です。

- ◆日 時 平成15年2月4日(火)18時半から
- ◆会 場 高津市民館 第4会議室
- ◆講 師 総合企画局統計情報課 職員

問い合わせ 学習事業室 ☎044(733)6626

生涯学習ア

●さがす●

学習活動のお役にたちます

—教育人材センター—

川崎市の学校を退職した教職員が、ボランティアとして、皆様のさまざまな学習活動の支援をしています。教育人材の情報提供と紹介をいたします。

—最近の教育人材紹介例—

- ▼PTAの家庭教育学級の講師(心の問題を中心に)
- ▼日本語の指導(外国人小学生へのことばの指導)
- ▼小学校の歴史学習の講師(室町文化・水墨画の体験)
- ▼中学校の野外学習の講師(地域に学ぶ・竹細工他)
- ▼自分史作成講座の講師(初心者へのて手ほどき)
- ▼英会話講座の講師(初歩の英会話)
- ▼囲碁教室の講師(初心者対象)

★「人材ガイド」を差し上げます(無料)★

140円切手を同封のうえ、下記へお申し込みください。

〒211-0011 中原区下沼部1709-4

川崎市教育会館内 教育人材センター

問い合わせ 教育人材センター ☎044(435)7474

川崎市子どもの権利に関する条例—その18  
「かわさき子ども集会」へのお誘い

来る12月15日(日)正午(展示発表は11時)から、川崎市高津市民館ホールにて『かわさき子ども集会』が開催されます。この集会は、川崎の子どもたちが集まり、様々なテーマに沿って本音で話し合う場です。この集会の企画・運営を行っている“子ども集会実行委員”からメッセージが届いています。

この集会は「Let's talking!—子どもだから言いたい事—」をテーマに川崎市内の小・中・高校生年代の子どもたちが、話し合いをします。話し合いの内容は、[環境・バリアフリー・権利・子ども・文化]の五つについてです。子どもである今だからこそ言えること、考えていることを子ども同士で話し合っ、たくさんの人に聞いて欲しいと思います。

私たちは「川崎市子ども会議」で、この集会に向けて色々準備をしてきました。この集会を「参加してよかった」と思えるものにするには、何をどうすればいいのか子ども集会の実行委員を中心に真剣に話し合ってきました。企画も運営もみんな子どもです。大人の皆さんも私たちの声を、聞きにきて下さい。

子ども集会実行委員 島田さおり

事務局 教育委員会生涯学習推進課 ☎044(200)3309

※このコーナーでは(財)川崎市生涯学習振興事業団の事業や関連施設の紹介をしています。

## ラ・カルト

## ●はぐくむ●

## 冬の風物詩 黒川でもちつき

自然いっぱいの黒川青少年野外活動センターで年末年始の伝統行事を体験してみませんか。おもちをついたり、しめ飾りを作ったり、焚き火で焼芋と盛りだくさん。師走の一日、家族やお友達と一緒に楽しみませんか。

日時 12月23日(祝) 10時～14時(受付は12時半まで)

参加費 300円(餅代、保険など)※雨天決行

申し込み 12月2日(月) 10時から電話で(先着250人)

問い合わせ 黒川青少年野外活動センター ☎044(986)2511



## ●たのしむ●

## 冬から春の「スポーツ教室」のご案内

冬季から初春にかけて屋外スポーツ教室で楽しく学び、健康・体力をつくり快適な生活をおくりましょう。皆様の参加をお待ちしております。

## ◆中原ゴルフ教室(場所:丸子橋ゴルフ練習場)

・水曜コース 1月15日～3月5日

・木曜コース 1月16日～3月6日

・金曜コース 1月17日～3月7日

時間は全コースとも10時～11時半 全8回

受講料…各16,800円 定員…各15人

## ◆中原テニス教室(場所:等々力テニスコート)

1月17日～3月7日 毎週金曜 全8回

・初心・初級者コース 9:30～11:00

・初中級者コース 11:30～13:00

受講料…各9,600円 定員…各16人

申し込みは、12月24日(火)必着で、往復はがきに教室名及びコース・住所・氏名・TEL・年齢・性別を記し、下記あてにお送りください。

〒211-0064中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団

問い合わせ スポーツ事業室 ☎044(733)5572

## ハート &amp; ハーモニー Vol.28

## 大人のための健康づくり

平成6年に作成された「川崎市生涯スポーツ振興基本計画」には「健康学習は生涯学習の基礎科目に」とうたわれています。学校での義務教育に始まり、高等学習へと進み、専門学習を経て、その後の生涯学習は「好きなことを自由を選択して学習する」イメージが強いように感じられますが、自分の身体のこと、一度学べばそれで終りにする訳にはいきません。しかも大人になるまでに十分学習したと言える人はほとんどいないはずです。

社会の平均年齢の高まりを受けて「大人の」を銘打った物事はどこでも見かけます。「大人の」は、成熟した、分別ある、高級な、といったイメージで使われ、自分が「子供とは違う」大人であることを意識する人の心をくすぐるようになってきました。ただ、それだけで喜んでいては子供騙しにも思えます。

健康づくりのための運動を実践するとき「大人」とは「自分で考え、知恵を持って選択し、責任を持って実行し、結果を自分で受け止められる人」です。そのために学ぶ環境と実行できる環境を、幅広い選択肢で提示できるのが「豊かな健康文化の社会」と言えるでしょう。

競技スポーツと違って、健康づくりのための運動は「いつでも、どこでも、だれでも」実践できるための創意工夫が必要です。運動が継続しない4大理由は、①時間がない、②場所がない、③指導者がいない、④仲間がない、ですが、これらを言い訳に使えば運動をしないことは簡単です。貧しい環境に妥協することは残念ですが、方向性を見失わないように高い理念を持って、工夫しながら運動を実践することは、大人には必要です。

体力面だけを考えると、大人とは成長が終わって後は衰えるだけ、とも言えなくはありません。しかしこれはグライダーの滑空距離が操縦技術で決まるようなもので、グライダーを落ちるだけのスポーツと思わないのであれば、健康づくりの面白さは十分に味わえると思います。体力の基本は環境や刺激に上手に対応できる「適応力」です。身体は日々の生活に適応しながら生きているのですから、それをどう設計するかは自分自身の問題です。

大人の健康づくりは、様々なことを学び、それを自分の身体と人生に還元し、世代を越えた知恵として伝える、壮大な遊びです。この遊びは「健康はすべてではないが、健康がないとすべてがない」(ドイツの諺)を考えるとよく解ると思います。

(健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦)

## ぐるーぷBOX

## 文字を読み解き昔に出会う

## 「川崎市の古文書を読む会」

江戸時代の文書を読み解き、当時の社会状況を研究しているのは「川崎市の古文書を読む会」(笹岡洋一会長)の50代～80代のメンバー22人です。古文書の資料整理・解読・調査研究を行い、これまでに「伊勢道中記」「御条目」「一紙文書」など30点余りを冊子にまとめました。同会の誕生は6年前。川崎市公文書館主催の「古文書講習会」の受講者が「近世から近現代の川崎の歴史を古文書から学びたい」と発足させました。

ある日、川崎市公文書館の一室を訪ねると、辞書や資料を机いっぱい広げた会員たちが「安政七年御用留(幕府の命令を記録したもの)」を解読していました。この古文書は末長地区の元名主の家に残っていたもので、幕末の様子が描かれています。筆でしたためられた崩し字を、進行役の会員が名調子で読みながら解釈していました。

「『作場』というのは『作業場』という意味でしょうか」と問う会員に「それは耕作地のことです」と、郷土史に明るい会長が解説。また「この字はなんと読むのでしょうか」との質問に、一文字をめぐるさまざまな解釈

が飛び交い、それを裏づける説明や資料が示されます。この熱いやりとりが「知的興奮がある」「謎解きのようでおもしろい」「解読後の爽快感がいい」と、メンバーには魅力のようです。

事務局の岩谷さんは「古文書を“見るもの”に終わらせず、後世に伝承させていきたい。全国的なネットワークができるといいですね。会のホームページも作成していきたい」と抱負を語っています。

- ◆定例会：毎月第3日曜 13時半から
- ◆場 所：川崎市公文書館
- ◆連絡先：☎・Fax(822)3509 笹岡さん



## いま地域で学校で

## 読書で知る喜びを目指す

## 白山中 図書ボランティア「feel」

2学期、ある木曜の昼休みに図書室を訪ねました。50人程の生徒達がハーブティーを飲みながらくつろいだ様子で、お母さんの読む「マザーグース」の詩にじっと聞き入っていました。麻生区の白山中学校(正村和久校長、生徒数228人)では、月2回、図書ボランティアのお母さん達が活動しています。



朗読が終わると生徒達は、親しげに次回の朗読について尋ねたり、本の選び方のアドバイスを受けたりしていました。図書室には、フラワーアレンジメントや切り絵のポスターが飾られ、心なごむすてきな雰囲気でした。

これらはすべて「feel」の方の手作りで、生徒達に出されていたハーブティーも地元で栽培のものだとのこと。活動は、詩の朗読を中心に図書の整理と貸し出しの手伝い、読書相談などを行っています。今までに金子みすず、谷川俊太郎、中原中也の詩集などの朗読をしました。生徒達が気軽に図書室に足を運んでくれることを第一にし、いずれは本に親しみ、本を友とするようになることを願い活動しています。

「feel」の1人は、3年前白山小学校で図書ボランティアとして絵本の読み聞かせに携わっていました。生徒達の読書への興味がさらに高まればと中学校での活動を5月から始めました。7～8人程度の利用だったものが、今では40～50人の満席状態になっています。

教室に戻る時「詩を読むことが好きだから次も必ずきます」といった2年生男子の言葉がとても印象的でした。

正村校長は「活動は始まったばかりですが、これから読書について活動の成果が現れてくると思います」と語っていました。

まち・ひと・多面体

幸区の新しい地誌づくりに燃える

「幸・まちの自分史」実行委員会

「幸・まちの自分史実行委員会」(菅野勝之会長、31人)は、10月に行われた区民祭に、明治時代以降の地域の変貌ぶりを「見てみよう！幸の今と昔」にまとめた写真展を幸市民館で開催しました。会員たちが聞き取りと実地調査をしながら、写真や関係資料を集めたものの中から、その一部を区民に公開展示したものです。

写真展に伺うと、「ワー、懐かしい！」と、昭和30年頃に写した子どもの遊びや紙芝居屋さんなどの写真、昭和22年に写した幸地区の航空写真と現在の写真、二ヶ領用水の地図や産業の変遷などを食い入るように見ているのが印象的でした。

この写真展は、幸の歴史を「水」「産業」「地域史」に分けて、写真、地図、関係資料など約150点余りを展示。パソコンやビデオも置かれ、実行委員の意気込みが伝わってきます。会員は、2日間で延べ1400人という予想外の来館者に嬉しい悲鳴をあげながら、汗だくで説明やプログラムの追加に追われていました。先生から「学校にも展示してもらい、子どもたちに見せてあげたい」とい



う申し出もあり、会員を喜ばせています。

この写真展は、昨年度から幸市民館の「地域セミナー」企画・運営に公募した12人の区民と31人のセミナー参加者で「幸・まちの自分史実行委員会」を組織して主催したものです。この活動を通して、これまでの郷土史にない貴重な写真など、新たな発見もあったそうです。

これからは「町内会や老人クラブを訪ね、収集した資料や写真の確認などをしていきたい。また、14年前に出された『幸区地誌』の改訂版を作りたい」と、菅野会長は話しています。

同会の問い合わせは ☎044(541)3910の幸市民館

くらし百景

雁来紅歌会

歌壇

母逝きて三年を経てようやく手に手擦れし把手の桐箆篋ひらく  
何鳥か横断歩道渡りつつ放送の鳴声我を急がす

神田ふたば  
岡部 静子

大師橋下りつつ見ゆ ゆらゆらとお化け煙突燃ゆる梅雨空  
水無月の肌に添いくる夕光のやわらかな狭庭にいつつ

吉田 時重  
當麻伊佐子

戸隠の湖畔の夕映えに肩組みし息子らのスナップは私の宝  
有難う・ありがとうしか言えないの見舞えば姉はか細く言いぬ

大友 幸子  
山本多磨枝

古稀すぎし吾に秘めたる夢ふたつ叶う日あらば口笛ふかん  
忘れいし球根の芽われこそはチューリップよと葉をひろげたる

志村美智子  
阿部 澄子

家族らが集いし炉端のぬくもりも思へばはかなき線香花火  
下蔭の間に伸びし曼珠沙華傾がぬ習性の花からみ合ふ

松原れい子  
鎌倉恵美子

金色の髪逆立ててバイク駆り夕陽裂く子よ何に怒れる  
残さる余生は幾歳年輪のきざめる顔に眉引きてみる

山田 フミ  
高澤セツ子

久々にすずらん通り通り抜く仕事の道も今は旅人  
両者とも負けられぬ力士の取組に一人は負けるをじつと見詰むる

川名富美子  
山崎登美子

わが家には必要な人でありたしとそんな思ひに朝の庭掃く

佐々木 篤

※雁来紅短歌会の発足は平成二年。毎月第一金曜の一時半から教育文化会館で行っております。先生は、NHK講座にも出ておられる青井史先生です。どうぞ教室にお出かけください。問い合わせは ☎(二四四)七七四一 佐々木篤まで

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●ランチタイムコンサート シャンソン～あなたとクリスマス

12月18日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。無料。出演は小林淳子、久富ひろむ他。曲は「ピノキオへの手紙」「サンタが街にやってくる」他。☎(222)8821市文化財団。

●登戸混声合唱団 第15回チャリティコンサート

12月22日(日)13時半開演、多摩市民館大ホール。曲はグレゴリオ聖歌とルネッサンス時代の宗教曲、混声合唱組曲「心の四季」他。入場料は一般1500円、小学生500円。☎(945)5058の山吉さん。

●フレッシュアンサンブルかわさき=写真=in 2003

1月11日(土)14時開演、麻生市民館大会議室。ピアノ、ヴァイオリン、マリimba、チェロによる演奏。ショパン「バラード4番」、中田喜直「霧と話した」他。後半は「世界を巡る子守り歌と紙芝居」。無料。☎(989)1338の丸山さん。



●小川典子ピアノリサイタル

1月24日(金)19時開演、川崎能楽堂。曲は武満徹「雨の樹」ドビュッシー「亜麻色の髪の乙女」他。入場料3500円、チケット発売中。☎(222)8821の市文化財団。

●ミニ画廊スナック琴～写真展

12月2日(月)～28日(土)。福士岩夫の風景・スナップ作品。展示無料。☎(544)0507。

●砂子の里資料館創立記念特別展～世界に誇る浮世絵名品展

12月3日(火)～21日(土)。場所は川崎区の同館。春信・写楽・廣重など世界に誇る浮世絵師の作品。無料。10時開館。日祝休館。☎(222)0310。

●「美の呪力 ニューギニアの姿・かたち」展

1月13日(祝)まで、岡本太郎美術館。ニューギニア関連資料200点、岡本太郎の写真・彫刻30点、写真家・大石芳野作品30点、漫画家・水木しげるのイラストや原画30点などを展示。一般900円、高・大学生700円、65歳以上と中学生以下は無料。9時半開館。☎(900)9898。

●宮本隆司写真展「AFTER 1995-2002:KOBE & SATYAM」

1月19日(日)まで、市民ミュージアム。大人500円、学生300円、中学生以下と65歳以上は無料。9時半開館。☎(754)4500。

●玉川大学公開講座

12月開講の「ハンドベル講習会」「暮らしに活かすマイナスイオン」「ネットワーク管理者養成講座」などの受講者を募集。詳細は☎042(739)8895の同大継続学習センター。

●青少年創作センター～新春創作教室(成人対象)

①草木染②絵手紙③手編み。①は1月29日(水)2月6日(木)12日(水)20日(木)、全4回。②③は2月6日～27日の毎木曜、全4回。時間は①②10時③13時半。定員各30人、抽選。費用は①6000円②3200円③6200円。☎1月15日(水)までに往復はがきに教室名、氏名、性別、住所、☎を記し〒214-0034多摩区三田2-3303-1、同センター。☎(911)1510。

●青少年創作センター～新春創作教室(小・中学生対象)

①はた織り②料理。①は2月8日(土)9日(日)11日(祝)9時半。②は2月15日(土)16日(日)22日(土)23日(日)の9時半。定員は①12人②30人、抽選。①1000円②2000円。☎1月15日(水)までに往復はがきに教室名、氏名、性別、☎、学校名・学年を記し〒214-0034多摩区三田2-3303-1、同センター。☎(911)1510。

●市民プラザ女性軟式テニス教室

1月20日(月)～3月24日(月)、全10回。市民プラザ体育館。初級者10時～12時、定員30人。中級者13時～15時、定員20人。受講料12000円。12月25日(水)までに往復はがきに氏名、住所、年齢、☎、希望コースを記し、〒213-0014高津区新作1-19-1「テニス教室」係まで。☎(888)3131。

●入門手話講習会

2月6日～3月6日の木曜18時半から、全5回。場所は南部身体障害者福祉会館。40人、抽選。無料。☎1月23日(木)までに往復はがきに住所・氏名(フリガナ)・年齢・☎・「入門手話講習会希望」と記し、〒210-0834川崎区大島1-8-6の同館。☎(244)3971。

●男声合唱団「高津メンネルコール」団員募集

創立10周年を迎えた合唱団です。毎週木曜の18時45分より、JR武蔵溝ノ口駅から徒歩5分の場所で無伴奏の合唱曲を中心に練習しています。入会金1000円、会費3000円。見学歓迎。☎(860)1787の鈴木さん。

表紙写真 撮影者からひとこと

今年最後のStage Up

一年間の虫のドラマの閉幕

「ボクも舞台にでたかったな」

「アタイも」

「オレも 端役でもいいから…」

「わかったよ、キミたちも元気に頑張っていればいつか檜舞台に登場する事ができるだろうよ」

登場した虫たちに声援をおくって下さった皆様  
よいお年をお迎え下さい

日本写真作家協会会員 川口 道明

●年末年始休館のお知らせ●

◆川崎市生涯学習プラザ

12月28日(土)から新年1月4日(土)まで  
問い合わせ…☎044(733)5560 当事業団総務室

◆新百合トウェンティワン

12月27日(金)から新年1月3日(金)まで  
問い合わせ…☎044(952)5000 当事業団新百合分室